

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 8 年 6 月 23 日

岩手県知事 達増 拓也 殿

提出者

住 所 岩手県北上市相去町大松沢1-107

氏 名 わらべや日洋食品株式会社 岩手工場
工場長 川上 修司

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0197-67-1000

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	わらべや日洋食品株式会社 岩手工場
事業場の所在地	岩手県北上市相去町大松沢1-107
計画期間	令和8年4月1日から令和9年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	食品製造業
② 事業の規模	9,275百万円
③ 従業員数	
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	金属くず → 中間処理業者に委託し、選別→リサイクル 動植物性残渣 → 再生処分業者に委託し、発酵→堆肥化 動植物性残渣 → 焼却処分 廃プラスチック → 再生処理業者に委託し、選別→リサイクル 廃プラスチック → 焼却処分 汚泥 → 再生処分業者に委託し、発酵→堆肥化 汚泥 → 再生処分業者に委託し、リサイクル

（日本産業規格 A列4番）, 23

花保七第

号

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

統括責任者：工場長

廃棄物担当者：製造一課1名、製造二課1名、資材課1名、管理課1名、工務課1名

役割：廃棄物の発生及び排出量の抑制、適正処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で

必要な事項を検討する。

議長：工場長、メンバー(各課より)

統括責任者・・・廃棄物処理方針の策定、廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認

廃棄物担当者・・・廃棄物発生状況の把握、抑制策の検討、維持管理状況の把握に加え
生ごみ処理機を活用した排出量削減

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	金属くず	動植物性残渣	廃プラスチック	汚泥
	排出量	3.21 t	405.91 t	409.69 t	270.20 t
	(これまでに実施した取組)				
	材料発注時(発注数、材料カット時期)の数量確認及び精査 予想生産数量を精査し、動植物性残渣発生量の抑制 生ごみ処理機を設置、活用し動植物性残渣排出量の削減				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	金属くず	動植物性残渣	廃プラスチック	汚泥
	排出量	3.11 t	393.73 t	397.39 t	262.09 t
	(今後実施する予定の取組)				
	材料管理、予想生産数量の精度向上、廃棄数量の削減に努める。 上記取り組みを今後も継続				

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 従業員の意識を高める為、四半期ごとに廃棄物数値を掲示し分別意識を高める
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記取り組み継続。 朝礼やミーティング等で従業員のゴミ分別・廃棄抑制の意識を高めて排出削減に努める。 また、材料発注時の確認、製造時の予想との差、作りかぎでの廃棄の抑制に努める。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 7年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	金属くず	動植物性残渣	廃プラスチック	汚泥
	全処理委託量	3.21 t	405.91 t	409.69 t	270.20 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0.00 t	120.61 t	407.07 t	212.45 t
	再生利用業者への処理委託量	3.21 t	285.30 t	2.62 t	57.75 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組)				
	従業員意識を高める為、四半期ごとに廃棄物数値を掲示し削減意識を高める				

(第5面)

②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	金属くず	動植物性残渣	廃プラスチック	汚泥
	全処理委託量	3.11 t	393.73 t	397.39 t	262.09 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	116.99 t	394.85 t	206.08 t
	再生利用業者への処理委託量	3.11 t	276.74 t	2.54 t	56.01 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組) 朝礼やミーティング等で従業員のゴミ分別・廃棄抑制の意識を高めて排出削減に努める。 また、材料発注時の確認・製造時の予想との差・作りすぎでの廃棄の抑制に努める。 従業員の意識を高める為、四半期ごとに廃棄物数値を掲示し削減意識を高める				
※事務処理欄					

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じた事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

請
じ
ま
と
中
間
量
行
収
あ
へ
と
の
入

(産業廃棄物の種類: 全体)

排出した産業廃棄物の合計量を記載してください。

有償物量

不要物等発生量

自ら直接
再生利用する量
②

自ら中間処理した後
再生利用する量
⑧

排出量
①
1,089.01
1,056.32
t

自ら直接埋立処分又は
海洋投入処分する量
③

数値は、
上段: 前年度実績値

項目	前年度実績値 今年度目標値
①排出量	1,089.01 1,056.32 t
②+⑧自ら再生利用を行った量	t
⑤自ら熱回収を行った量	t
⑦自ら中間処理により減量した量	t
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t
⑩全処理委託量	1,089.01 1,056.32 t
⑪優良認定処理業者への処理委託量	740.13 717.92 t
⑫再生利用業者への処理委託量	348.88 338.40 t
⑬熱回収認定業者への処理委託量	t
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t

自ら中間処理
する量
④

自ら中間処理した後
の残さ
⑥

自ら中間処理した後
自ら埋立処分又は
海洋投入処分する量
⑨

⑩のうち再生利用
業者への処理委託量
⑫
348.88
338.40
t

⑩のうち熱回収認定
業者への処理委託量
⑬
t

⑩のうち熱回収認定
業者以外の
熱回収を行う業者
への処理委託量
⑭
t

自ら中間処理によ
り減量した量
⑦

直接及び自ら
中間処理した後の
委託処理量
⑩
1,089.01
1,056.32
t

⑩のうち優良認定
処理業者への
処理委託量
⑪
740.13
717.92
t

(産業廃棄物の種類:

金属くず

)

排出した産業廃棄物の種類別のシートを作成してください。
2種類以上となる場合は、シートをコピーしてお使いください。

不要物等発生量

有償物量

排出量	
①	t
3.21	
3.11	

数値は、
上段:前年度実績

自ら直接 再生利用する量	
②	t

自ら直接埋立処分又は 海洋投入処分する量	
③	t

項目	前年度実績値 今年度目標値
①排出量	3.21 3.11 t
②+⑧自ら再生利用を行った量	t
⑤自ら熱回収を行った量	t
⑦自ら中間処理により減量した量	t
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t
⑩全処理委託量	3.21 3.11 t
⑪優良認定処理業者への処理委託量	t
⑫再生利用業者への処理委託量	3.21 3.11 t
⑬熱回収認定業者への処理委託量	t
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t

自ら中間処理 する量	
④	t

④のうち熱回収 を行う量	
⑤	t

自ら中間処理した 後の残さ	
⑥	t

自ら中間処理によ り減量した量	
⑦	t

自ら中間処理した後 再生利用する量	
⑧	t

自ら中間処理した後 自ら埋立処分又は 海洋投入処分する量	
⑨	t

直接及び自ら 中間処理した後の 委託処理量	
⑩	t
3.21	
3.11	

⑩のうち優良認定 処理業者への 処理委託量	
⑪	t

⑩のうち再生利用 業者への処理委託量	
⑫	t
3.21	
3.11	

⑩のうち熱回収認定 業者への処理委託量	
⑬	t

⑩のうち熱回収認定 業者以外の 熱回収を行う業者 への処理委託量	
⑭	t

(産業廃棄物の種類:

動植物性残渣

)

排出した産業廃棄物の種類別のシートを作成してください。
2種類以上となる場合は、シートをコピーしてお使いください。

有償物量

不要物等発生量

② 自ら直接
再生利用する量
t

⑧ 自ら中間処理した後
再生利用する量
t

③ 自ら直接埋立処分又は
海洋投入処分する量
t

排出量
① 405.91 t
393.73

数値は、
上段：前年度実績

項目	前年度実績値 今年度目標値
① 排出量	405.91 t 393.73
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	t
⑤ 自ら熱回収を行った量	t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t
⑩ 全処理委託量	405.91 t 393.73
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	120.61 t 116.99
⑫ 再生利用業者への処理委託量	285.30 t 276.74
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	t
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t

⑥ 自ら中間処理した
後の残さ
t

④ 自ら中間処理
する量
t

⑨ 自ら中間処理した後
自ら埋立処分又は
海洋投入処分する量
t

⑦ 自ら中間処理によ
り減量した量
t

⑤ ④のうち熱回収
を行う量
t

⑩ 直接及び自ら
中間処理した後の
委託処理量
405.91 t
393.73

⑬ ⑩のうち熱回収認定
業者への処理委託量
t

⑭ ⑩のうち熱回収認定
業者以外の
熱回収を行う業者
への処理委託量
t

⑪ ⑩のうち優良認定
処理業者への
処理委託量
120.61 t
116.99

⑫ ⑩のうち再生利用
業者への処理委託量
285.30 t
276.74

(産業廃棄物の種類:

廃プラスチック)

排出した産業廃棄物の種類別のシートを作成してください。
2種類以上となる場合は、シートをコピーしてお使いください。

有償物量

不要物等発生量

② 自ら直接
再生利用する量
t

⑧ 自ら中間処理した後
再生利用する量
t

① 排出量
409.69
397.39
t

③ 自ら直接埋立処分又は
海洋投入処分する量
t

⑨ 自ら中間処理した後
自ら埋立処分又は
海洋投入処分する量
t

数値は、
上段:前年度実績

項目	前年度実績値 今年度目標値
①排出量	409.69 397.39 t
②+⑧自ら再生利用を行った量	t
⑤自ら熱回収を行った量	t
⑦自ら中間処理により減量した量	t
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t
⑩全処理委託量	409.69 397.39 t
⑪優良認定処理業者への処理委託量	407.07 394.85 t
⑫再生利用業者への処理委託量	2.62 2.54 t
⑬熱回収認定業者への処理委託量	t
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t

⑥ 自ら中間処理した
後の残さ
t

④ 自ら中間処理
する量
t

⑩のうち再生利用
業者への処理委託量
2.62
2.54
t

⑩のうち熱回収認定
業者への処理委託量
t

⑦ 自ら中間処理によ
り減量した量
t

⑤ ④のうち熱回収
を行う量
t

⑩ 直接及び自ら
中間処理した後の
委託処理量
409.69
397.39
t

⑩のうち熱回収認定
業者以外の
熱回収を行う業者
への処理委託量
t

⑩のうち優良認定
処理業者への
処理委託量
407.07
394.85
t

(産業廃棄物の種類:

汚泥

)

排出した産業廃棄物の種類別のシートを作成してください。
2種類以上となる場合は、シートをコピーしてお使いください。

有償物量

不要物等発生量

排出量	
①	t
270.20	
262.09	

数値は、
上段：前年度実績

自ら直接 再生利用する量	
②	t

自ら直接埋立処分又は 海洋投入処分する量	
③	t

自ら中間処理した後 再生利用する量	
⑧	t

項目	前年度実績 今年度目標値
①排出量	270.20 262.09
②+⑧自ら再生利用を行った量	t
⑤自ら熱回収を行った量	t
⑦自ら中間処理により減量した量	t
③+④自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	t
⑩全処理委託量	270.20 262.09
⑪優良認定処理業者への処理委託量	212.45 206.08
⑫再生利用業者への処理委託量	57.75 56.01
⑬熱回収認定業者への処理委託量	t
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t

自ら中間処理した 後の残さ	
⑥	t

自ら中間処理 する量	
④	t

自ら中間処理した後 自ら埋立処分又は 海洋投入処分する量	
⑨	t

自ら中間処理によ り減量した量	
⑦	t

④のうち熱回収 を行う量	
⑤	t

直接及び自ら 中間処理した後の 委託処理量	
⑩	t
270.20	
262.09	

⑩のうち優良認定 処理業者への 処理委託量	
⑪	t
212.45	
206.08	

⑩のうち再生利用 業者への処理委託量	
⑫	t
57.75	
56.01	

⑩のうち熱回収認定 業者への処理委託量	
⑬	t

⑩のうち熱回収認定 業者以外の 熱回収を行う業者 への処理委託量	
⑭	t